

十神山



会報 安来節

YASU GI BUSHI

発行所 安来節保存会

〒692-0064
島根県安来市古川町534
TEL 0854-28-9988
FAX 0854-28-9393
http://www.y-hozon.com/
E-mail:admin@y-hozon.com

11月8日に開催された安来節保存会代議員会において、令和2年度の上位昇格者と表彰者、感謝状贈呈者が報告されました。
准名人に1名、大師範に7名の方が昇格されました。おめでとうございます。
来年の1月10日の唄い初め会において、免状・表彰状授与及び感謝状の贈呈と昇格披露を行います。

上位昇格者

准名人(二名)



唄 森 廣 治 恵
(本部道場)

大師範(七名)

- 唄 高橋 節子 (本部道場)
- 唄 土江 時子 (本部道場)
- 錢太鼓 増田 登志子 (本部道場)
- 絃 三代目 福太郎 (加茂)
- 錢太鼓 長谷川 恭子 (松江)
- 唄 伊賀 和子 (鳥取)
- 唄 赤田 鶴子 (宮島)

会員表彰者

(三十三名)

感謝状贈呈者

(七名)

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 大久佐 | 小々木 | 須田 | 原代 | 上本 | 中安 | 角三 | 武田 | 佐藤 | 大前 | 土井 | 村野 | 河野 | 沖野 | 丸本 | 中村 | 藤川 | 有重 | 尾下 | 難波 | 清水 | 小井 | 堀田 | 三浦 | 竹内 | 長嶺 | 山崎 | 坂根 | 吉立 | 本岡 | 原田 | 川崎 | 片寄 | 熱田 | 清水 | 金築 |
| 講宣 | 宣明 | 偉市 | 茂善 | 文男 | 安夫 | 角三 | 武田 | 佐藤 | 大前 | 土井 | 村野 | 河野 | 沖野 | 丸本 | 中村 | 藤川 | 有重 | 尾下 | 難波 | 清水 | 小井 | 堀田 | 三浦 | 竹内 | 長嶺 | 山崎 | 坂根 | 吉立 | 本岡 | 原田 | 川崎 | 片寄 | 熱田 | 清水 | 金築 |
| 慶智 | 明神 | 市大 | 善斐 | 男松 | 夫松 | 角三 | 武田 | 佐藤 | 大前 | 土井 | 村野 | 河野 | 沖野 | 丸本 | 中村 | 藤川 | 有重 | 尾下 | 難波 | 清水 | 小井 | 堀田 | 三浦 | 竹内 | 長嶺 | 山崎 | 坂根 | 吉立 | 本岡 | 原田 | 川崎 | 片寄 | 熱田 | 清水 | 金築 |
| 頭 | 門 | 東 | 川 | 江 | 江 | 角三 | 武田 | 佐藤 | 大前 | 土井 | 村野 | 河野 | 沖野 | 丸本 | 中村 | 藤川 | 有重 | 尾下 | 難波 | 清水 | 小井 | 堀田 | 三浦 | 竹内 | 長嶺 | 山崎 | 坂根 | 吉立 | 本岡 | 原田 | 川崎 | 片寄 | 熱田 | 清水 | 金築 |

新役員決定

任期 令和元年10月1日～令和3年9月30日

このたびの役員改選に伴い、新役員が決定しました。安来節がますます普及・発展するよう新役員の方々のご尽力に期待し、会員の皆様のご協力をお願いいたします。

会長

近藤 宏樹 (市長)

副会長

美濃 亮 (副市長)

専務理事

田中 武夫 (市議会議長)

常務理事

内田 修次

常任理事

渡部 孝夫 (家元)

理事

足立 喜信

指導部員

飯橋 由久

資格審査員

渡部 孝夫

監事

長島 勲 (本部道場)

指導部員

松村 益淳

指導部員

原村 啓之助

指導部員

伊藤 芳吉

指導部員

安達 雅宏

安来節保存会 和歌山支部

毎月 第4土曜日 午後1:00～5:00
河南コミュニティセンター TEL 073-477-6522

第36回国民文化祭 紀の国わかやま文化祭2021

- ▶ 令和3年11月7日(日) 民謡民舞の祭典 (仮名称)
- ▶ 粉河ふるさとセンター 和歌山県紀の川市

全国からお国自慢!

民謡民舞のご参加をお待ちしております!

感動を呼ぶ 音色と響き 丹念な加工 調整 仕上げ

(有)仁木三味線

製造・販売/修理 三味線・鼈甲撥・尺八・太鼓

〒240-0022 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西久保町197-1
TEL 045(713)4319 FAX 045(741)4796

HP <http://www.syamisen.com/>

陶工・河井寛次郎が愛した安来弁

並 河 健 蔵

京都で活躍し、終生ふる里安来を愛した陶芸家・河井寛次郎は、若い頃の私どもに安来弁を大事にするように熱心に説かれた。私が青年時代は、家の前が三叉路で、よく田舎のおばあさんが、立ち話をしたのを覚えている。そんな例を思い出して、九十才代と八十才代の初めの二人のおばあさんの話をまとめてみた。

※A、Bは人物。【】は訳、コメント。

A あだん！だーかと思つたら、あんだか。久しぶりだったな。

B 【感動詞】 あらー誰かと思つたら、あんだか。久しぶりだったな。

A まめならえだーも、なえぐれしちよつて。

B 【元氣なら良いけれど、体が弱つてねー。】

A どうしていたの？

B 腰はえてし、脛こはえてし、歩かれんだけん…。

A 【腰は痛いし、脛も痛いし、とうとう歩けなくなつて…。】

B 早いとこ、医者はん診て貰わんと！

A 【早くお医者さんに診てもらわなと！】

B 【有難う。ようこそ心配してくれて有難うね。】

A 【それで、どげだったの？】

B 腰には、えてえて注射をしてもらつて、その上に、じゃにこと薬を貰つて、恥しや、恥しや。

A 【腰には、痛い痛い注射を打つてもらつて、その上に、沢山薬をいただいて、恥しいこと…。】

B そげかね。そつて治つて出て来なつたか。

A 【良かったね。元氣になつて出掛けて来たの。】

B 【それなら、良いけれど。】

A 【何かしたの。(想像して、心配そうに。)]

B えんや。ちよんぼし気分が良かったんで、スーパーへ行つたが、そげしたら、おベタワ、玄関入つた処に西瓜が、山のように積んであつて、その上に旗が立つちよつて…。一つが二千円もすーとや。

A 【いいえ、少し気分も晴れてきたので、スーパーへ行つたの。そうしたら驚いたの。玄関入るとすぐに西瓜が山のように積み上げてあつて、その上に旗が立つていて…。一つが二千円もすると。大概、とんでもないことだ。】

B 【それで、どげしたの！(少し、せかすように)】

A 【うちの畑でも成つちよつと思つて、急いで行つたわね。】

B 【我が家の畑でも西瓜が成つてると思つて、行つたわ。】

【いいえ、少し気分も晴れてきたので、スーパーへ行つたの。そうしたら驚いたの。玄関入るとすぐに西瓜が山のように積み上げてあつて、その上に旗が立つていて…。一つが二千円もすると。大概、とんでもないことだ。】

B 【それで、どげしたの！(少し、せかすように)】

A 【うちの畑でも成つちよつと思つて、急いで行つたわね。】

B 【我が家の畑でも西瓜が成つてると思つて、行つたわ。】

A 【それで、取り上げようとしたら、尻餅をついたか、ギックリ腰か。】

B 【それで、取り上げようとしたら、尻餅をついたか、ギックリ腰になったの？(先を見越して…)】

A 【そげだわ。】

B 【あなたの処は嫁さんにやらせればええがね。】

A 【あなたの処は嫁さんに、取らせれば良かったのに。】

B 【わしも、そげ思つただーも、嫁も勤めにしつちよつて、晩方遅くなつてから、頼む訳にはいかんわね。】

A 【自分もそう思うけど、嫁さんは勤めていて、夜遅くなつてから頼む訳にはいかないわ。(注：ここにも姑の時代から嫁の時代へ来たかど…)】

B 【あなた、西瓜の一つや二つ、どげでもええわね。九十にもなつて体を大事にしないや。】

A 【あなた、西瓜の一つや二つ、どうでも良いじゃないですか。九十にもなつてから、体を大事にしてね。(万感こめてのアドバイスである。)(後略)】

ここには河井寛次郎が云わんとする安来弁のエキスをあつた。陶芸家・河井寛次郎の実像を学ぼうとするとき、そのキーワードになる言葉は、感動、感謝、祈り、創造の四つである。「あだん」という感動詞、「だんだん」という感謝、さらに祈りと創作がある。

私は思う。この短い会話を聞いてみると、飾り気がなく、本音のコミュニケーションに満ちている。相手を慈しみ、励まし、時に労り忠告もする本気度が分る。数百年の間、住民たちによつて、使ひならし、話し易いようにすべくしたりして、感動、感謝、祈りを忘れないのが、安来弁なのである。

私と安来節

一人でも多くの人に



副資格審査長 矢倉哲郎 (尾高支部)

私が安来節を始めて今年で四十三年になります。きっかけは銭太鼓でした。はじめは銭太鼓を打つだけでしたが練習を重ねて行くうちに、安来節の唄がよく理解できていなくてうまく打てない事が分かり、そこで唄も習うようになりまし。更に続けるうちに鼓、三味線も取り組むようになり、仲間と一緒に安来節をすることが本当に楽しくなりました。

今思えば一生懸命に励んだあの頃が懐かしき思い出されます。安来節の将来の事であり、やはり含め高齢化が進む一方、若年層の人数が少ないのが現状であり、このままでは伝承が難しくなり、衰退しかねません。私は安来節保存会の本来の意義である安来節の伝承と保存に寄与したいと常に考えております。

安来節に興味を持ち、自分もやってみたく思つてもらう為には、まず「安来節」の存在を知ってもらう

事から始めなければなりません。私は敬老会や老人福祉施設等から演芸の依頼があれば積極的に参加するようになっていますし、何か他に安来節を知ってもらふ方法がないか、いつも考えています。

そんな矢先、私が長年勤めた会社のOB会主催の文化講演会で講師を依頼され、安来節のお話と鼓の実演を致しました。安来市の会社だったこともあって、安来節のことは皆さん馴染みがあり、とても喜んで下さり、私もとても嬉しく本当に楽しいひと時でした。

講演終了直後、参加されていた方が、自分の地元の公民館で今日のよう講演をしてみたいとおっしゃり、今年九月二十五日に実現いたしました。前回とは違い今回は鳥取県米子市蚊屋の巖公民館で開設されている公民館大学「いわお塾」の講師として招かれ、そこで伝統講座「私と安来節」というテーマで講演させて頂くことになりました。

参加される方が安来節の事をご存知かどうか分からず、どのような内容の講演にすべきか思案しましたが、まずは安来節の事を知ってもらう事として楽しく過ごして今日の講座に来て良かったと思つてもらえるような内容にしたいと思つてまいりました。

いよいよ講演当日になりました。のくらのいの方が安来節のことをご存知

知かをうかがつてみました。唄の事、どじょうすくい、銭太鼓の事、安来節演芸館の存在の事等々、色々な事を聞いておりました。その結果皆さんの返答は、誰も何もよく分からないとの事。

安来節の本場安来市の隣の市であるにもかかわらずこのような状況に、逆にならぬように受けました。逆にならぬように受けました。逆にならぬように受けました。

逆にならぬように受けました。逆にならぬように受けました。逆にならぬように受けました。

逆にならぬように受けました。逆にならぬように受けました。逆にならぬように受けました。

逆にならぬように受けました。逆にならぬように受けました。逆にならぬように受けました。

逆にならぬように受けました。逆にならぬように受けました。逆にならぬように受けました。

逆にならぬように受けました。逆にならぬように受けました。逆にならぬように受けました。

逆にならぬように受けました。逆にならぬように受けました。逆にならぬように受けました。

逆にならぬように受けました。逆にならぬように受けました。逆にならぬように受けました。

逆にならぬように受けました。逆にならぬように受けました。逆にならぬように受けました。

逆にならぬように受けました。逆にならぬように受けました。逆にならぬように受けました。

逆にならぬように受けました。逆にならぬように受けました。逆にならぬように受けました。

逆にならぬように受けました。逆にならぬように受けました。逆にならぬように受けました。

芸道無涯



副指導部長 松村益男 (石見支部長)

昭和十九年、尺鮎で名高い江の中流域で生まれ育ちました。父の従兄弟は、NHKのど自慢に出場し、自ら鈴を鳴らしながらの小諸馬子唄で合格し、母の従兄弟は、浪曲師に弟子入りし、旅回りをしていたようです。我が家には蓄音機があり、物心付く頃から流行歌、浪曲、安来節等をよく聞いておりました。将来は

民謡歌手と決め、祖父母、両親の前で生涯初のオーディションのつもりで唄ってみました。全員大笑で「お前如きは世の中には五万とい

る、大それた事は考えず、技術を身につけ、オートバイ屋でも開業する方向で考える」という事で、その時は諦めました。

前回の東京オリンピックが開催された頃は、東京で生活しており親達の示し通り、その道に進んでおりましたが、唄の道も諦めきれず民謡教室に入り、東北、北海道、沖縄と全国各地の人達と練習に励んでいました。一時は、先生の各教室に同行し、本気で取り組んでおりました。ところが時期もありましたが、親達の意見がトラウマとなつており、一歩踏み出す事が出来ませんでした。自立の



機会を与えて頂き、私自身もとても良い経験になり、また刺激を受けました。後日、講演の感想をお手紙で頂き、とても楽しく好評だったとの内容で感激致しました。

やはりまだまだ安来節の事をご存知ない方が沢山いらっしゃると思いますので、一人でも多くの人に是非知って頂きたいという気持ちで益々強くなりました。

今の私があるのは、諸先輩方のご指導と長年に練習に励んだ仲間存在のお陰だと痛切に感じ心より感謝しております。

今後も各個人の技術の向上はもちろん、伝統を誇る安来節を正しく伝承し後世に伝えるべく一人でも多くの方に「安来節」の魅力を伝え、更なる発展に貢献できるように精進努力を続けて参ります。

安来節は唄、三味線、鼓、踊り、銭太鼓が一体となって表現されるもので、どのパートもそれぞれの特徴と魅力があり、その事を紹介した後で、実際に生で鼓の演奏を聴いて頂きました。又、今回参加されたのは

普段当地区の巖公民館でコーラスやカラオケを楽しまれている方が多いようでしたので、安来節を音階にした楽譜を見ながら一緒に合唱してみることができました。一通りメロディーが分かった所で、今度は初心者用拍子図解を見ながら手拍子を打つて全員合唱をしました。安来節を歌うのはもちろん初めてという方ばかりでしたが、普段からのどを鍛えておられるのでとても上手で、大いに盛り上がりました。皆さんとても楽しんで歌われ、私も嬉しくなりました。

今回初めて安来節に触れるという方々に安来節の魅力を伝えるという

関係で巡り巡つて現住所で地域の皆様にお世話になっております。四十五、六年前、安来節の指導者が来られ、教室が開かれ、早速入会させてもらいました。安来節は聞き覚えのある事に唄っていましたが、まさに手拍子迷入で三味線で唄つた事もなく、唄い出し等が全くわかりませんでした。以前からいつかは素唄でも三味線で唄えようになりたいと熱望しておりましたので、入会出来た時は、それは天にも昇らんばかりの嬉しさでした。風呂上りに太腿を見ると黒く内出血しており、練習で拍子を取るのに一生懸命叩いたのが原因だったようです。

ある指導者の方から、寒声(甲声)取りを勧めてもらい十二月末頃から二月末頃まで吹雪の夜でも積雪の中、

長靴を履いて、四十〜五十メートルの川幅の対岸に向かい川の瀬音の被る音にかき消されぬよう、出来る限り楽音を発音するように心がけて唄い込みをしました。以来、歳月はあっという間に過ぎ去りましたが、安来節のおかげで身に余る方々との出会い、想像もしなかつた経験も積ませていただきました。

今は、唄とは絃の基音からさわりに移行する音色を感じとり、唄の子音母音をいかに調和させるか遠くから聞こえる鐘の音のように課題は高く遠くなるばかりですが、先人の諸先生方に感謝しつつ体力の続く限り、努力研鑽しなくてはと思つております。





指導部員 小村 顯二 (松江支部)

私と安来節

安来節を習いたいと思っただけは、兄が町内の集会所で、六人位で唄を習い始め、祭り等の酒席で唄い、楽しんでみた。でも人前で唄など唄う事は恥ずかしくてダメなので、三味線ならと思ひ、昭和五十四年の十月頃に鼓名人の原文先生にお願いし、習い始めました。初めは覚える事で無我夢中！、その翌年に松江支部に入会し、初審査会で三味線に挑戦し、二級に昇格しました。その後、並行して鼓、男踊りも習い始めましたが、昇格するたびに、どの種目も難しくなり悪戦苦闘を繰り返して...



武藤 辰夫 (関東支部)

私と安来節

私と安来節(踊り)との出会いは、五十四年前の結婚式宴会の時、伯父(母の兄)がどじょうすくい踊りをしてくれました。その踊りは、ユイモラで出席者の心を引きつけて楽しそうに感動を受けました。将来、どじょうすくい踊りを習得して、みんなでも楽しむ事の出来る踊りだと思いました。その時、伯父はどこで覚えたのか聞いてみたら、伯父は戦士の招集を受け、戦場の中では、いつ爆撃を受けるかわからないので、隊員全員で「ユイモラ」の事になり、その時の隊員の中から「安来節のどじょうすくい踊り」との意見が出て、賛成多数により「状況を見ながら楽しくやっついこう」となり、その時に覚えたと言っていました。その後、終戦になり戦地から無事帰って来て、「もう戦争はいやだ」と涙を浮かべ話してくれました。月日が経ち、定年まであと五年頃になって公民館長としての異動命令があ...

返しながら挑戦し、時には辞めたくもなりましたが、その内に少しずつですが、技量の向上が認められる様になり、三味線、鼓、男踊りの順に師範の資格を頂き、益々安来節の魅力にはまってきました。これも偏に原文先生を始め、諸先生方、会員の皆様の丁寧なご指導の賜物と深く感謝しております。そして、家元四代目渡部お糸先生との出会いです。安来節道中、東北地震災慰問、国内外のイベントなどに沢山参加させて頂き、その時々の反響は想像以上でした。お陰様で忘れずの思い出に色々々な経験や体験、感動、また沢山の人々との出会いで友達もでき、私の大きな財産になりました。安来節を続けて来て、今現在は、安来節演芸館にも出演させて頂き、また地域のイベントやボランティア等にも参加し、仲間と一緒に楽しんでおります。これからも初心を忘れずに皆様方と一緒に安来節の発展と継承に努めたいと思ひます。今後とも御指導の程、よろしくお願い申し上げます。

り、さて公民館では何をすれば良いのか心を痛めていました。公民館では、地域住民が好む二、三の事業を実施しなければならぬと言われたので、頭を痛めて、①ゴルフ教室②どじょうすくい踊り教室③三味線教室を考えました。担当者なので、全講座に私も一緒になって参加しました。その中で軽快なリズムとユイモラスな「どじょうすくい踊り」は、お年寄りから若い人まで健康作りと地域住民との親睦を深め、文化の向上を図る事が出来ると思ひました。この公民館には五年間在籍し、会員と共に練習を重ねてきました。ある時、中学校から「体験教室でどじょうすくい踊りをやってもらえませんか」との依頼を受けました。この中学校では、「どじょうすくい踊り」や「民謡踊り」等の体験を二時間位した後、体育館で発表会を開催し、生徒と父兄に見てもらっています。生徒の間では、来年はどこの教室に入ろうかと話している姿を見て感動しました。この中学校では、毎年秋にこのような事業をしています。(現在は、関東支部の方々が担当し、学校及び生徒に喜ばれています。)

私は、他の各老人施設等で芳野どじょうすくいクラブ会員とどじょうすくい一人踊りや二人踊り、団体踊り、その他の踊りを十二名でボランティアで施設等で披露し、喜ばれています。

支部情報

担い手育成



吉川 静樹 (神門支部長)

山陰を代表する民謡「安来節」の担い手を次世代に繋ぐと、平成十三年から現代までの十八年間にわたり、島根県出雲市佐田町の児童、生徒等を対象に安来節教室を開講し、毎月二回、唄、三味線、どじょうすくい踊り、銭太鼓、鼓の指導を行っています。現在、保育園から高校生まで二十三人が教室に通い、次第に成果を上げながら、市内の「出雲阿国まつり」「こと芸能まつり」「出雲神在月市民芸術文化の祭典」「出雲そばまつり」「出雲オロチまつり」「松江城お城まつり」などの方々から出演依頼を受け、練習の成果を披露しています。

【文化の牽引役に】 少子高齢化による人口減少の今日、地域の文化活動の牽引役として、児童、生徒へ安来節を指導し、青少年の健全育成と郷土芸能の継承のために貢献したいと思っております。

「火の国・熊本への旅」



古澤 敏 (関西支部)

一昨年にさかのぼる話で、熊本出身の会員から毎年神社の御祭りで「どじょうすくい」を踊っていると聞き、「観光を兼ねて出演したらどうか」と先生の反応があり、半信半疑で会員に働きかけ、参加者募集・経費・日程・催物などの計画を立て、積立が始まりました。関西支部高槻教室の富田朋徳先生を団長として、有志八名が九月二十九日、十月一日までの二泊三日の熊本県上益郡山都町の御霊神社御祭りに参加することになった。一行は大阪空港より営業精神旺盛に関西支部の安来節ウェアを着用し、熊本空港へ。二台のレンタカーで観光しながら、野・山・川・また山々を越えて熊本会員の待つ故郷に向かった。あいにく、小雨で御霊神社の屋外ステージが使えない為、村の公民館に移しての祭りで行く。村の人達がすでに集まっており、私達一行を暖かく歓迎してくれた。



和歌山色で染めた 25周年大会



藤原 梨江 (和歌山支部)

みかん色の着物でお馴染み元気いっぱい 和歌山支部です。平成6年に関西支部和歌山教室として発足し、平成16年3月に和歌山支部を設立し、現在会員は、50名(内少年の部11名)です。会員のほとんどが、他の民謡の会に所属し、全国民謡の一つとして、安来節をやってみようという集まり、どじょうすくいハマッテ和歌山支部が誕生しました。発足してから5年毎に発表会を開催し、去る平成31年4月21日、平成最後「25周年記念発表会」を開催しました。発表会の開幕は、会員全員の大合唱から始まり、毎回、会員の池上かをるが作詞を担当してくれました。

二十五周年の唄

ゆく年来る年(い)たび迎へ 平成名残の桜吹雪 今日佳日に晴ればれと 集いて唄うは 『和歌山支部二十五周年』安来節



【第1部】無資格から三段の部、少年の部、准師範の部、銭太鼓(素唄2本、銭太鼓(銭太鼓歌詞))、第2部、銭太鼓(早打ち)、師範の部、団体の部、支部長出演、ゲスト出演と順に進み、合間には、友情出演とし会員が各民謡の会に所属しているの、北海道、岩手県、秋田県(手踊り)、和歌山県とバラエティに富んだ民謡を披露していただきました。普段、和歌山支部は、月1回の練習ですが、2回に増やし、皆で盛り上げてきました。初めて発表会に参加した人達は、緊張で表情が硬くなっていましたが、度胸満点の和歌山支部、終わった後は、満面の笑み。子供達も一生懸命に歌詞やお辞儀の仕方を覚え、大人顔負けのどじょうすくいも踊ってくれました。銭太鼓も初心者が多かったのですが、必死に順番を覚え、発表会に間に合い、早打ちでは紀州美人5人(てまりっ娘)が本番めっちゃ早かったのですが、無事にやりきりました。

師範の部は、アンコ入りを勉強し披露。支部長出演は、和歌山の顔、藤原眞千子に眞千子節でピシッと締めていただきました。

ゲストには、准名人、原淳文先生、中尾俊介先生、大先生、雲啓之助先生にお越し頂き、これぞ本場の安来節!!を披露していただき、私たち会員はもちろんのこらんと、観客の皆さまも酔いしれ感動させていただきました。そして、今回発表会をするに当たり、会員全員にひと言メッセージを書いていただきました。名前とともに司会の方に読んでいただき、観客の方にその人の安来節への思いが伝わり、一人一人の演技を真剣に見て、拍手を送っていた。会場中があなたたかいたか空気に包まれていたように感じられ、楽しいひと時を過ごすことができました。

これからも、和歌山支部は、楽しく明るくをモットーに本場の安来節に近づけるように頑張りますので、保存会の皆さま、ご指導よろしくお願ひ致します。

民謡民舞今フェス二〇一九へ出場



福原由美 (広島支部)

平成二十九、三十年と二年連続で安来節全国優勝大会・師範唄の部で優勝し、昨年に引き続き、民謡民舞今フェス二〇一九へ出場いたしました。安来節保存会の皆様、貴重な経験をさせていただきありがとうございます。

民謡民舞 今フェスとは一九八八年〜二〇一七年の三十年にわたって東京渋谷のNHKホールで開催されていた、日本民謡フェスティバルが平成三十(二〇一八)年から場所を浅草公会堂へ移し、観客の皆さまが一層楽しめるプログラム構成となり生まれ変わりました。といっても、毎年日本各地で開催されている民謡全国大会の優勝者が応募して、テープ審査に通過した約三十名がグランプリを目指すという趣旨は変わっていません。

私は、平成二十一年(二〇〇九)五月に初めて受けた唄の師範審査で優勝し、三ヶ月後の八月に優勝大会で優勝しました。その十月後の翌年六月に、日本民謡フェスティバル二〇一〇へ出場しました。一般的にはトントン拍子というのでしょうか、実際自分の身に起きると、状況に流されるまま、アレヨアレヨという間に一年間で人生が変わってしまったような感覚になりました。幼い頃から人前で歌ったり踊ったりすることが苦手な私がこんな大舞台で、唄を披露するなんて。「由美ちゃん、声が大ききどこにおるかすぐわかるんよね。」と、昔からよく言われていて、声は人一倍大きかったようなんです。一番驚いているのは両親だと思えます。両親は二級のときからずっと予選会から優勝大会まで応援に来てくれています。この度、三度目のフェスティバル出場、最初に出場したときから十年経過している間に両親も年を取り、あちこち身体に痛



三代目 福太郎(左) 福原由美(中央)・長部千春(右)

みが出てきていますが、現地で応援したいという思いでウォーキングや体操を始め、この頃は以前より元気になってきたようです。いつもありがとうございます。さて、今フェス二〇一九について。当日は前日のリハーサルの前やかな雰囲気が一変、全国の民謡の猛者たちがぎらぎらやかな着物をまとって臨戦態勢の楽屋舞台裏、否が応でも緊張感が高まります。しかし、私には長部千春さん(絃、今フェス二〇一八も一緒しました)、三代目福太郎さん(鼓)という仲間がいます。安来節代表としてプライドを持って、先生方に教わったことを全て出すという強い気持ちで大舞台に立ちました。今年、大師範に昇格いたしましたので、素唄と大師範の選定歌詞を唄いました。残念ながら入賞には至りませんでした。お二人の伴奏のおかげで大変心強く、精一杯唄うことができました。演奏後は他の民謡の人たちとの交流に恵まれ、富山県から応援に来られた方から「安来節は有名だけど、あなたが歌ったのは聞いたことがない。安来節にはこんな歌詞もあるんだね。いい唄を聴かせてもらってありがとう。」と言われました。

今後はこれまで以上に安来節を追求し、安来節発展に貢献すべく、後進の育成も含めて活動していくのが私の使命です。精進あるのみ、と改めて心に誓った大会でした。安来節は来年以降もぜひ今フェスに参加して、民謡界の底上げの一端を担う存在であり続けて欲しいと思います。今フェス二〇一九の模様は十二月十五日(日)15時5分〜16時34分、NHK総合テレビで放送予定ですので皆様ぜひご覧ください。

会員の声コーナー

安来節と私



高橋美嬉 (本部道場)

玉簾の演技出演の会場で、安藤先生率いる銭太鼓の演技に初めて出会いました。「えー、何？あれ、何と書いてないバチのよなものをお返すの？」そして音楽に合わせ、床を叩いたり、空中で回したり、早くなったり、遅くなったり、一曲目と二曲目のバチのようなものが、またまたきれいな色に変わったり、キョロキョロとまばたきもせず見入っている私。そして二曲目の前半、私の目は、一人の方の演技に釘づけ。それが先生の銭太鼓でした。只々、衝撃的で大感動で私の心が揺れた瞬間でした。その一年半後、玉簾と銭太鼓の双方に加入させて頂き、そこで初めて銭太鼓はリズム楽器であること、民謡安来節の中の一つであることを聞き、ビックリ！「えー、ヤスキッって、どじょうすくいではないの？」と心の中で思った事を思わず口をついて。その程度しか知らなかった私です。しかも先生は「ヤスキッ」と濁ります。そんな私が、浅草のゴロゴロ会館での昇級審査を受ける様になり、唄があり、踊りがあり、銭太鼓があり、絃があり、鼓があること、皆、昇級審査に真剣に挑戦している姿を目の当たりにして、「安来節！何か果てしもないものに踏み込み触れてしまったのでは？」と思い、一方で「この歳になって評価していただけるものがあるという事は、目標を持ち、それに向かって努力をする。怠け者の自分には、大事なものであるのでは！楽しんで出来たら、元氣ももらえるし」なんて思いをめぐらす一日でした。

二ヶ月前から「素唄」に挑戦！民謡は独特でとても難しく、銭太鼓もそうですが、「ああ、私も島根県安来に生まれてよかったな、もっと早く安来節を知ることが出来たのに(上手に出来る)と思込込でいる私」。下手は下手なりに、あるがままに受け入れ、すべてに感動する事が出来れば良いのですが、そこにいつもどこかかかっている自分がいます。安来節素唄の練習、節回しがとても難しく先生の愛(?)のムチに耐えながら、四苦八苦している今日この頃です。良き師、仲間を得て、これからは安来節に触れていけることに感謝し、素直な気持ちで自分の心と会話をしつつ、少しづつ前進出来る様、歩いて行きたいと思っています。

安来節との出会い



荒木喜代子 (平田支部)

平田公民館にて安来節の審査があり、友人が受けるので、見に行きました。うっとりと聞き入っていました。私、「安来節を習ってみたいなあ」と思い立ち、それから四十年も経ちました。振り返ってみると、安来節の練習中に、まだ小さかった我が子の目の充血が目薬を入れに帰り、またすぐに練習に戻ったりした事を懐かしく思い出します。長い間続けられておかげで、宴会の席やサロン等で唄い、三味線の音色が大好きで、その音色に魅せられ、今日まで続ける事が出来た事に感謝している私です。

あの時の銭太鼓が今



中沢伸子 (本部道場)

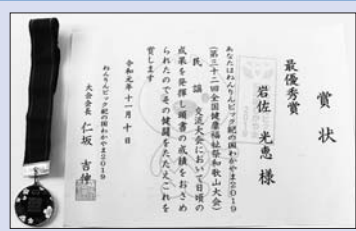
今から八年程前、私が福祉施設のデイサービスに勤務している時の事。「今日は、銭太鼓のボランティアさん達が来てくれるよ！」皆さんも一緒に体験させてくれるよ！」と、朝からみんなで大盛り上がり。レクリエーションで大騒ぎするのは、毎回の光景ではあるが、やはりいっとなんか嬉しい。昼過ぎに「待っていました！」と華やかな衣装に身を包み、颯爽と現れた御一行様達。手の平を横に広げた程の長さの棒の両端には紅白の毛糸の房が付いている。棒全体を覆ったキラキラした模様は、室内のライトでさえ美しく反射していた。流れる曲に合わせて右へ左へ、トントンパチパチッ。グルグルと目が回る程に振り回されるその棒に、みんなの目は釘付けにされた。これが私と銭太鼓との出会いである。いとも簡単に、たった二本の棒を振り回すだけで、何と見る人を笑顔に変えてしまうのだろうか。毎日静かな時間を過ごす利用者様達には、最高の集団だ。その後、忙しい日々を過ごし、一二年

銭太鼓と私



北田登喜子 (本部道場)

後のある日、娘の通う学校の掲示板の一枚のポスターが目にとまった。「銭太鼓始めませんか？」とあった。あの昔見た銭太鼓だ！と思い、見学を希望した。「良かったら持ってみる？ちょっと回してみるのね。」と、満面の笑顔で美に大きさに褒めてくださった。そのまま褒め上手な先生の言葉に、居心地の良さを感じながら、その日の内に入会していた。唯唯、見ているだけで良かった自分が、安藤先生とその教室の生徒さん達の楽しそうな表情のお陰で、棒を振り回す側の人へと変わる自分がいた。今では、家路を急ぐその先には、安藤先生と一対一の夜稽古が待っている。中々上達の出来ない私に、時折あの素敵な笑顔は消えるものの、一日の疲れを出さずに指導してくださる時間には感謝の一言につきます。



事務局からのお知らせ

令和元年十一月十日に開催された第32回(令和元年)度 全国健康福祉祭(ねんりんピック)和歌山大会の民謡部門において、唄：岩佐光恵さん 絃：岩佐勝雄さん 鼓：吉野和夫さん(全員本部道場)で出場された安来節が最優秀賞を受賞されました。誠にありがとうございます。

今回の、予期しないまま、いきなり繰る事に当り、「どうしたら...」私の極少の脳みそが揺らぐ一瞬でした。でも落ち着いて振り返ってみて思える事、人生七十数年過ぎた来ましたが、その中で、「私の人生の隙間から安来節という夢にも思ってもいなかった世界が光を差し始めたような気が

しました。お師匠さんの安藤先生とも偶然の出会いでした。自宅から少し離れた市内で食事後、何かテーブルの上に綺麗な筒が置かれていました。まあ、何と綺麗に、ピカピカに輝いていたので、つい近づいて「これは、何でしょうか？」と声を掛けてしまいました。その日の内に教室で練習を見学させて頂く事になりました。お会いした瞬間、何てチャームな先生！、途端に親しみを覚えました。また後日気が付いたのですが、この日はたまたまた大当たりのも忘れられない一日でした。好奇心旺盛だった私、怖いもの知らず、己をかえりみず、早々と教室に入る事に。これが、私が銭太鼓を始めるスタートになりました。お家元制度や日本民族楽器などなど、古くからの歴史の土台である事も知つつ挑戦の始まり...、その内、先生の熱意、そして劣を惜しまず、一歩一歩、指導に当たってくださりました。私の中に新たな葛藤が始まりました。自分の浅はかさや憤りを感じつつ邁進する日々、それから十年...、やっと伝統ある安来節の奥深さと重みを感じる事が出来る様になりました。お家元との出会いもあり、平成二十九年の浅草寺奉納公演を目的に、平成二十九年の底から深く感動を受け、今でも私の脳裏から離れません。現在は、銭太鼓が私の原動力となることを体現しつつ、千葉の彼方より唄と踊りと銭太鼓の安来節。そして、花吹雪舞う安来節の空に向かって応援しつつ、自分なりに一歩一歩前進するのみです。